



京都大学経営管理大学院
Graduate School of Management, Kyoto University

京都大学 経営管理大学院 活動概要



2024年1月30日(火)
京都大学 経営管理大学院
大学院長 澤邊 紀生

目次

1. 経営管理大学院の紹介
2. 教育
3. 課題と戦略



京都大学経営管理大学院
Graduate School of Management, Kyoto University

© Graduate School of Management, Kyoto University

2

1. 経営管理大学院の紹介

京都大学 大学院経営管理教育部・研究部 (経営管理大学院)

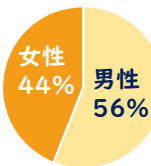
◆ 文理融合教育による高度経営人材の育成

- 2006年4月設置の経営専門職大学院
- 理念：先端的なマネジメント研究と
高度専門的実務での人材育成
- MBA 100名/年 (※2019年度より)
博士後期課程 7名/年



ダイバーシティのある学生構成 (2023年度)

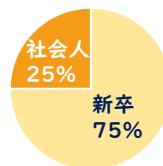
男性・女性割合



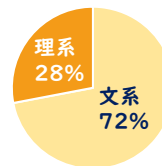
日本人・留学生



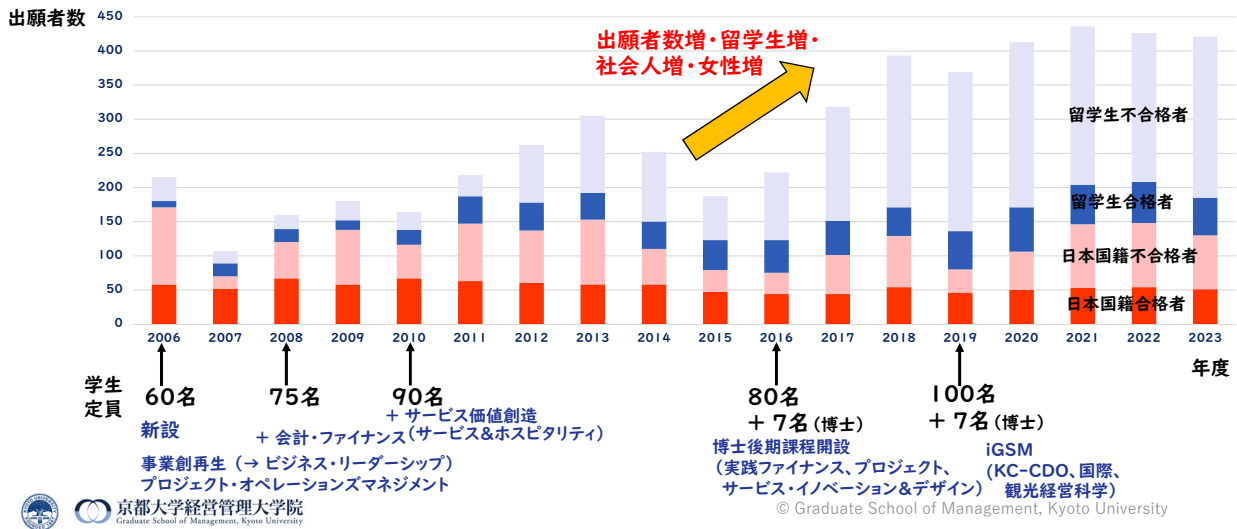
社会人・新卒



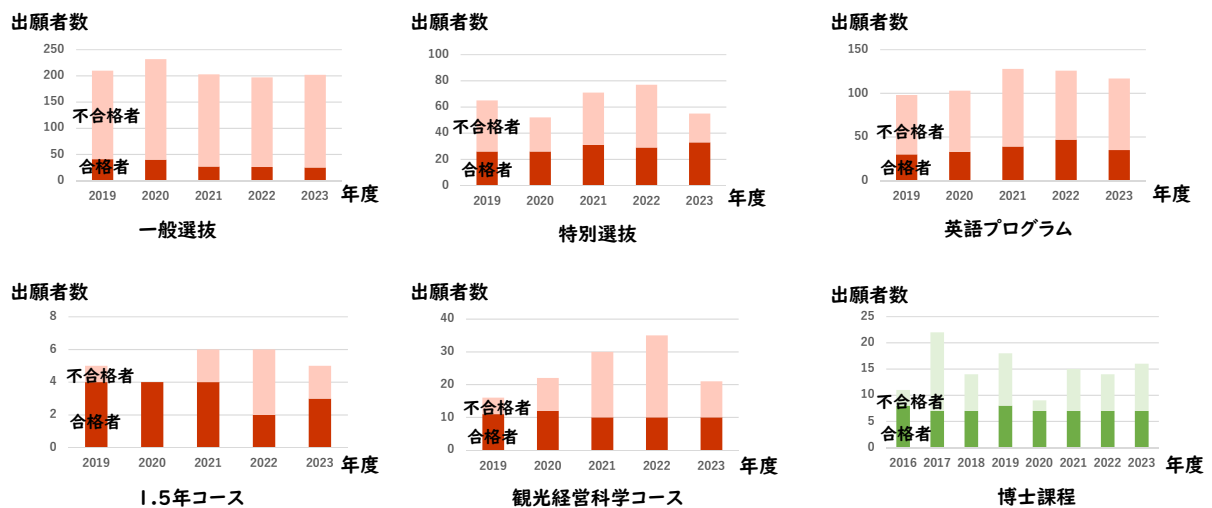
文系・理系



出願者数・合格者数の推移 (MBA)



受験種別の出願者数・合格者数の推移 (2019年～)



ミッション・ビジョン・バリュー

・ミッション

- 本大学院は、先端的な**マネジメント研究**と高度に専門的な**実務**との**架け橋**となる教育体系を開発し、幅広い分野で指導的役割を果たす個性ある人材を育成するとともに、研究の自由と自主を基礎に高い倫理性を備えた**マネジメント研究**により、地球社会の多様かつ調和の取れた発展に貢献する。

・ビジョン

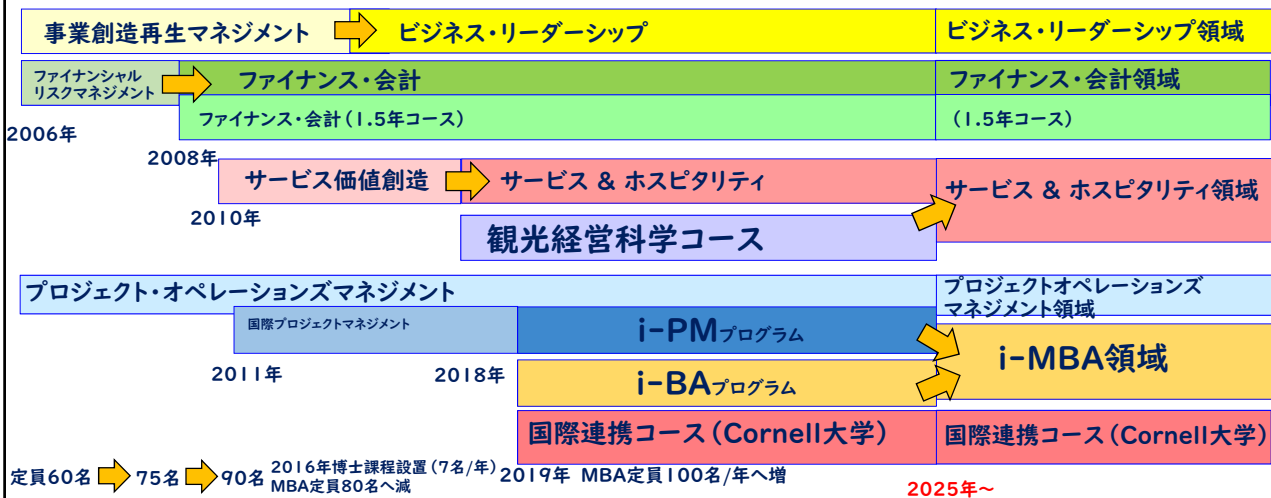
- 先端的な研究と専門的な実務教育において、アジアトップクラスのユニークなビジネススクールとなることを目指す。

・バリュー

- 自由・独立の精神と批判的討議を重んずる**京都大学の伝統**を継承し、**産官学連携**による**先端的な研究**のするとともに、**高度な専門性を備えた実務教育**を開発する。
- 多様な人材の受入れ**と開発された教育により、様々な分野で活躍する**グローバル人材**を輩出する。
- 世界に開かれた大学**として、**個性ある研究・教育**の提供と社会への貢献を果たす。



専門職学位課程 (MBA) のプログラム編成



部局レベルでの海外大学交流協定校一覧

世界19カ国において海外協定校38校(2023年5月時点)

北米・中南米

ヨーロッパ

- トルコ**
 - コッチ大学
 - 管理・経済大学院 / 経営管理大学院
 - イズミル経済大学
- ドイツ**
 - ミュンヘン工科大学
 - ハンブルク大学
 - テュービンゲン大学
- フランス**
 - アムリヨンビジネススクール
 - HEC Paris
 - グルノーブル・エコール・ド・マネジメント
- ベルギー**
 - アリュージェル自由大学
 - ソルベイブリュッセル経済経営学院
- ポルトガル**
 - ノヴァ・デ・リスボン大学
- デンマーク**
 - コペンハーゲン・ビジネススクール



京都大学
GSM

アジア

- タイ**
 - チュロンコン大学
 - ビジネススクール
- 台湾**
 - 国立台湾大学 管理学院
 - 国立政治大学 商学院
 - 国立陽明交通大学 管理学院
- ベトナム**
 - ベトナム交通通信大学
 - ハノイ貿易大学
 - ベトナム国道路総局およびベトナム交通通信大学(三者間交流協定)
- シンガポール**
 - シンガポール経営大学

中国

- 北京大学光華管理学院

韓国

- 釜山国立大学
- ソウル国立大学ビジネススクール
- ソウル国立大学データサイエンス研究科

インド

- アテネオ・デ・マニラ大学
- アテネオ・デ・マニラ大学

インド

- インド経営大学院コルカタ
- インド経営大学院アーメダバード
- インド工科大学カラグプル
- インド工科大学デリ
- 西ベンガル国立法科大学 (NUJS)
- インド経営大学院バンガロール
- インド工科大学マドラス (IITM)

ラオス

- ラオス国立大学

カンボジア

- 王立アノンベン大学 (RUPP)

キルギス共和国

- キルギス共和国大統領府附属経営アカデミー



アメリカ

- コーネル大学
- サウスカロライナ大学ダーラム・ア
- ビジネススクール
- ピラノバ大学ビジネススクール

教員構成 (2024年1月現在)

・ 教員合計 155名 (女性教員 22名)

■ コアファカルティ(フルタイム教員)

・ 専任教員22名 (女性教員 4名) ※ 定員内教員

- 教授 15名
- 講師(任期あり) 4名
- 准教授 3名

・ 特定教員 19名 (女性教員 4名) ※ 有期雇用のフルタイム教員

- 特定教授 6名
- 特定講師 3名
- 特定准教授 6名
- 特定助教 4名

・ 特別教授 5名 (女性教員 0名) ※ 専門職大学院設置基準における専任教員とみなす教員

■ 特任・客員教員

・ 特任教授 1名 (女性教員 0名)

・ 客員教員 62名 (女性教員 9名) ※ 時間雇用教員

- 客員教授 38名
- 客員研究員 2名
- 客員准教授 20名
- 寄附講座教員 2名

■ 特命教員

・ 特命教員 46名 (女性教員 5名) ※ 称号付与のみの教員(雇用関係なし)

- 特命教授 43名
- 特命講師 1名
- 特命准教授 2名

産学連携活動： 寄附講座・産学共同講座・寄附講義

□ 寄附講座 (17)

- 企業金融と資本市場(みずほ証券) 寄附講座
- 官民協働まちづくり寄附講座
- 港湾物流高度化寄附講座
- 道路アセットマネジメント政策 (NEXCO西日本・阪神高速) 講座
- 管理会計(経営会計専門家協会) 寄附講座
- 哲学的起業家研究寄附講座
- グローバル社会起業寄附講座
- シスメックス寄附講座
- 国際メガ・インフラマネジメント政策 (八千代エンジニアリング) 講座
- インテグレイティド・ホスピタリティ (グリーンハウス) 寄附講座
- プルータス・コンサルティング寄附講座
- プライベート・エクイティ (ポラリス・キャピタル・グループ) 寄附講座
- アート・コミュニケーションデザインと組織経営寄附講座

- SHIFT (DAAE) 寄附講座
- ブレインヘルスケア・ビジネスエコシステム寄附講座
- グリーンアントレプレナーシップ研究寄附講座
- レジリエンス経営科学研究寄附講座

□ 寄附講義 (5)

- パブリック・リレーションズ寄附講義
- アビームコンサルティング寄附講義
- ソシエテ・ジェネラル証券寄附講義
- ストライク寄附講義
- EY Japan 寄附講義

□ エグゼクティブ教育 (4)

- アジアビジネスリーダー人材育成プロジェクト
- 上級経営会計専門家プログラム
- 京都クリエイティブ・アッサンブラージュ
- 女性エグゼクティブ・リーダー育成プログラム

□ 産学共同講座 (3)

- アジアビジネス・リーダー人材育成産学共同講座
- 情報学ビジネス実践講座
- パラドキシカル・リーダーシップ産学共同講座

※ その他、国交省、経産省、内閣府等からの教育研究プロジェクト受託など



研究活動： 科学研究費 (研究代表者、2023年度)

研究種目	研究代表者	研究課題
基盤研究 (A)	肥後陽介 教授	流域治水を志向した河川堤防システム性能評価手法の確立
基盤研究 (B)	山内裕 教授	エスノメソロジーの相互反映性概念に基づく組織化理論の再考
基盤研究 (B)	原良憲 教授	動的な顧客情報の活用に基づくサービスクイパリティとその経営資源配分モデルの提案
基盤研究 (B)	若林直樹 教授	コロナ禍の経営危機下での中小企業の生存と組織レジリエンスの組織能力の総合分析
基盤研究 (B)	関口倫紀 教授	組織におけるパラドキシカル・マネジメントのマルチレベルアプローチ
基盤研究 (B)	山田仁一 教授	企業家エコシステムの複雑なライフサイクルのミクロ的基盤の質的比較研究
基盤研究 (B)	澤邊紀生 教授	マネジメントコントロールシステムの設計・運用とその効果に関する経験的研究
基盤研究 (B)	関口倫紀 教授	多国籍企業におけるブリッジ機能に関する統合的研究
基盤研究 (C)	蓮行 特定准教授	演出技法を発問と役割演技に応用した、多様な感性を引き出す道徳教育手法の実践的開発
基盤研究 (C)	大庭哲治 准教授	都市公共政策によるジェントリフィケーションの誘発分岐点と社会的公正の計量分析
基盤研究 (C)	安達貴教 准教授	不完全競争下における公共政策の厚生効果：市場支配度指数アプローチによる理論と実証
基盤研究 (C)	伊藤智明 寄附講座教員	組織が生まれる道筋の二人称的アプローチによる理論化
基盤研究 (C)	末長英里子 特定助教	演劇的手法を用いた授業実践者のもつ暗黙知の解明および熟達化支援に向けた方策の提言
基盤研究 (C)	小林潔司 特任教授	複合的プラットフォームにおけるリレーショナルガバナンスに関する研究
基盤研究 (C)	山田和郎 准教授	日本企業の現金保有はどのようにして変化したのか
基盤研究 (C)	國分圭介 特定准教授	社会的・心理的リソースが、コロナ禍の不安、コンプライアンス、離職意思に与える影響
基盤研究 (C)	赤倉康寛 特定教授	AISデータを活用した海上物流ホブススポット機能停止・停滞の経済影響推計手法開発
若手研究	通山絵美 特定講師	歴史的音変化の分析を通じた言語接触の痕跡から導く、多文化交流史の解明
若手研究	嶋田敬 講師	技術を活用したヒトにとって心地良い顧客接点のデザイン
若手研究	佐藤那央 特定講師	「制度」を踏まえた価値醸成メカニズムの検証：エスノメソロジーの視点から
若手研究	天野良明 講師	合併アノマリーと会計情報に関する定量的研究
若手研究	LIU, Ting 講師	The Physical and Virtual Global Employee Mobility within Multinational Companies: A Technology Affordance Perspective
若手研究	村上啓二 特定准教授	企業における資源事業と非資源事業のポートフォリオ最適化によるリスクマネジメント
若手研究	柳淳也 特定助教	アントレプレナーシップ概念を再考する：LGBTQの起業活動の質的分析
若手研究	YANG, I-chieh 特定講師	The politicization of traditional consumption in Asia
若手研究	門博藍香 講師	プラットフォームの小売企業との契約における制度設計に関する理論的研究
挑戦的研究(開拓)	肥後陽介 教授	土のミクロスケール多相系組織形態変化のモデル化-地盤変形予測技術の再構築へ
挑戦的研究(萌芽)	関口倫紀 教授	アルゴリズム・マネジメントと働く人々の思考・能力・行動の変容に関する研究
特別研究員奨励費	関口倫紀 教授	仕事上の向上心を通じた心理的に健全な組織の構築に関する研究



研究活動：受賞（2022年度～2023年度）



安達貴教准教授
日本応用経済学会・
著作賞を受賞



松本茂特命教授
第16回M&Aフォーラム
RECOF奨励賞を受賞



山田仁一郎教授
企業家研究フォーラム賞
(論文の部)を受賞

渡邊文隆氏(博士後期課程)
the AIB Asia Pacific
2022 Chapter
ConferenceでBest PhD
Dissertation Proposal
Award 第3位を受賞

経営研究センター

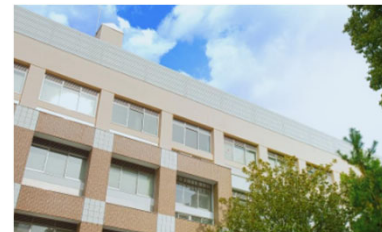


【Purpose】

経済、社会とビジネスの調和ある発展を実現するために、現代の多様で複雑な経営現象を分析し解明し、ビジネスと社会を進化させるソリューションを開発する研究および成果還元を取組を推進。そのために、経営管理大学院における経営学、経済学や工学・情報学などのする多様な分野の専門的知識を学際的に融合、発展させる取組をしている。

【Mission】

1. ビジネス問題に関わる産官学連携や文理融合の共同研究の推進
2. 現代の経済や社会の課題解決に資するビジネスのモデルやマネジメントの研究
3. 独自の社会人リカレント教育プログラムの研究開発
4. 地域創生に貢献するための調査研究や事業開発
5. 経営管理大学院の研究成果の社会への発信と還元
6. ビジネスの研究教育基盤についての研究と独自資源の開発



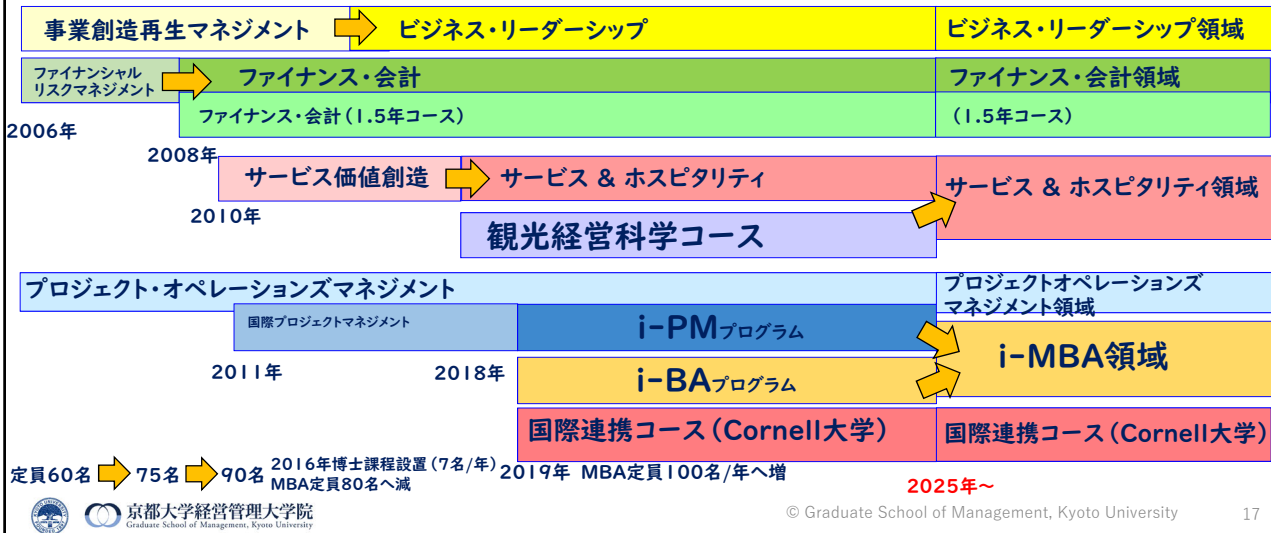
経営管理同窓会

- 経営管理大学院同窓会は卒業生によって設立されたものの、停滞する傾向があったため、2016年、経営管理大学院10周年を機会に、同窓会を再スタートした。
 - 同窓会は、各年次の代表による理事と、大学教員3名（院長を含む）で役員を構成。
 - 卒業生および同窓会会員管理のための卒業生情報管理システム（クラウドサービス）を導入（大学院）
 - 留学生を含めた取り組みとして国際キャリアセミナーを実施（インターコンチネンタルホテル大阪、PwC、P&G（プロクター・アンド・ギャンブル）、楽天グループ株式会社、等）
- 2016年度 再スタートの同窓会総会（10周年記念式典に同時開催）
- 2017年度 総会・講演会 OBによる業界説明会（コンサル業界）
- 2018年度 役員交代（会長 藤原大豊）総会・講演会
学位交付式後のGet Together Partyなどを実施
- 2020年度 役員交代（会長 大森貴之）
Online Get Together Partyなどを実施
- 2023年度 役員交代（会長 吉住このみ）
国際キャリアセミナー、GSM Dayなどを実施、
Terayama Memorial Student Lounge の設定など、
International Alumni Networkの確立に向けて始動

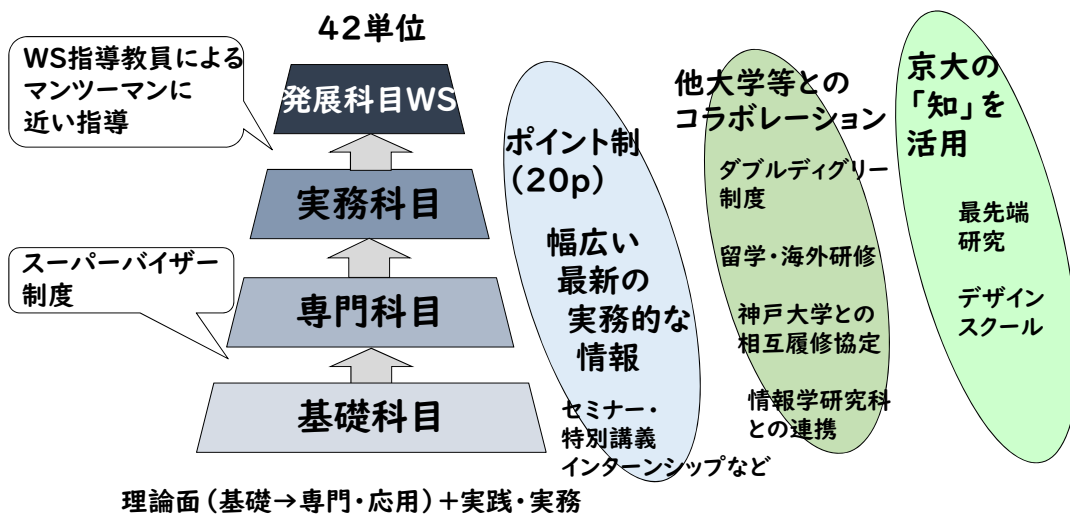


2. 教育

専門職学位課程 (MBA) のプログラム編成 (再掲)



専門職学位課程 (MBA) の学修体系



(1) ビジネス・リーダーシッププログラム

先行き不透明な組織、事業環境や世界的規模での競争が激化する市場において複雑な情報を処理し、リスクをとった意思決定を迅速に実行できるリーダーを育成。ケース・スタディやディスカッションを中心に理論と実践を融合した教育を実施。

◆ビジネス・リーダーシッププログラムの概要

ミッション (教育プログラムの意義)

・経営に必要な知識とスキル全般を幅広くカバーし、スペシャリティよりもジェネラル性を重視した対応能力の高いビジネス・リーダー教育を行う

育成すべき人材像

・多様化する人材を的確に動機付け管理・指導できるリーダー
・激変する市場環境に柔軟に対応できる判断能力を持ち、組織内の迅速な行動を開始するエグゼクティブおよび上級管理職

修了後の進路等

外資系経営コンサルティング、国内経営コンサルティング、外資系ITコンサルティング、外資系投資銀行、商社、起業、メガ・ベンチャー、上場前ベンチャー、製造会社(外資、国内)



(2) ファイナンス・会計プログラム

ファイナンス分野(財務)と会計分野との両分野にまたがる人材を育成。経営財務や金融市場に関する知識と分析、金融商品の設計能力などから金融に関するリスクを総合的にマネジメントできる能力を獲得。

◆プログラムの目的と育成する人材像

- ・グローバルスタンダードであるアカウンティングとファイナンスの基礎理論と専門理論を正しく学び、豊富な実務科目等を通じて実務への応用力を養う
- ・金融機関・事業会社・コンサルティング・ベンチャーなどで、企業価値向上に向けた課題解決に取り組み活躍することができる人材の育成
- ・ファイナンスに秀でた公認会計士、会計やファイナンスに関する高度な専門知識を有する証券アナリスト等の金融人材の育成(1年半コース)



(3) サービス&ホスピタリティプログラム

サービス産業の生産性向上や製造業を含めた産業の高付加価値化、価値持続化を目指すプログラム。総合的なホスピタリティ経営、サービスデザイン、公共インフラ経営などの能力開発により高度サービス化社会をけん引する人材の育成を実施。

山岡 雄己さん
2022年度修了生



2016年、偶然に東京青山で山内裕先生の「闘争としてのおもてなし」の講演をお聴きして、そこで京大にMBAコースができたことを知りました。

全日制でじっくりとアカデミックな学究に専心できること、男女比率や社会人比率などに偏りがなくダイバシティを体感できること、留学生比率が高くグローバルな環境に身を置けること、といった学習環境はとても魅力的で、進学モチベーションとなりました。

丸本 瑞葉さん
2019年度修了生

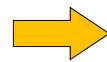


ITソリューションを主とした新規事業創出に取り組んでいました。しかし、新規事業創出の実践と理論の乖離に疑問を抱き、自身の実践的な新規事業創出を理論的に研究し、今後の日本発のビジネスのグローバルな立場を引き上げる研究に繋がれば、社会へ大きく貢献できると考え、進学を決めました。京都大学を選択した理由は、経営学とともにデザイン学を専門とされる先生がいらっしゃることで、今後の新規事業に必要な不可欠なサービス視点を専門とするコースがあったこと、また日本の企業を対象とした研究が可能な環境だと考えたからです。

(4) プロジェクト・オペレーションズマネジメントプログラム

国際的な大規模プロジェクト、新規技術開発など、比較的大規模な企業や行政機関が特定目的の達成を目指して取り組むプロジェクトに対応するプログラム。現代のビジネスにおいて大変重要なプロジェクトを経営管理できる人材を目指し、財務管理や戦略・組織管理などの能力を開発。

- 国際的な大規模プロジェクト
(インフラストラクチャーの整備, 維持管理)
- 新規技術開発
- 情報システム開発 など



連携組織
(プロジェクトチーム)

- ◆ 国際的な感覚, 技術力, 経営などの多様な能力をもったプロジェクトマネージャーを養成
- ◆ 経営管理能力の開発 (技術管理、財務管理、戦略管理、組織管理)

南 祐摩さん
2022年度修了生



数あるスクールの中でも、私がGSMを選んだのは、ITを活用したビジネスを行う上で、必須の知識であるプロジェクトマネジメントについて、体系的に学ぶことができる独自のプログラムが提供されている点が、上記で述べた私のニーズと合致したことが最も大きな理由でした。

岩崎 隆盛さん
2021年度修了生



学部時代は農学部所属しており、担い手不足や従事者の高齢化といった農業の課題の解決策の1つとして、農業へのIT導入が行われていることを学びました。一方、ただIT技術を使えば良いわけではなく、コストを考慮しなければいけないといった経営的な視点も必要であることも同時に学び、大学院では経営学やビジネスについて学びたいと考えました。GSMでは経営学やビジネスについて学ぶことができ、ITと経営に関する授業も用意されている、また、学部上りの学生や社会人の方、留学生といった様々なバックグラウンドのある方々と共に学ぶことができるため、GSMを選びました。

(5) 観光経営科学コース

(2025年度よりサービス&ホスピタリティプログラムと合併)

サービス産業の生産性向上や製造業を含めた産業の高付加価値化、価値持続化を目指すプログラム。総合的なホスピタリティ経営、サービスデザイン、公共インフラ経営などの能力開発により高度サービス化社会をけん引する人材の育成を実施。

①日本の観光

魅力を発信

- ・観光の地域と産業をマーケティング
- ・世界に文化と魅力をプロモーション

②ホスピタリティの

革新

- ・日本のホスピタリティを科学的分析
- ・そのサービスをイノベーション

③新たなビジネスの

開発

- ・観光の新たなビジネスを開発する能力
- ・ITの導入や他産業の分析

Executive Education

□エグゼクティブ教育

- アジアビジネスリーダー人材育成プロジェクト
- 上級経営会計専門家プログラム
- 京都クリエイティブ・アッサンブラージュ
- 女性エグゼクティブ・リーダー育成プログラム 他

アジアビジネスリーダー 人材育成プロジェクト

2013年度に設立

アジア地域におけるビジネスの拡大や新規事業の開拓ができる人材を育成。

上級経営会計専門家 プログラム

2016年度より開始

公認会計士や税理士など実務経験を持つ専門家を対象として、中小企業等の経営を支援するために必要な経営管理知識を体系的に修得し、実践的能力向上をはかる。

女性エグゼクティブ・ リーダー育成プログラム

2023年度開始(正会員企業:16企業)

役員を目指している、又は将来、役員候補になり得る女性を対象とする育成プログラム。

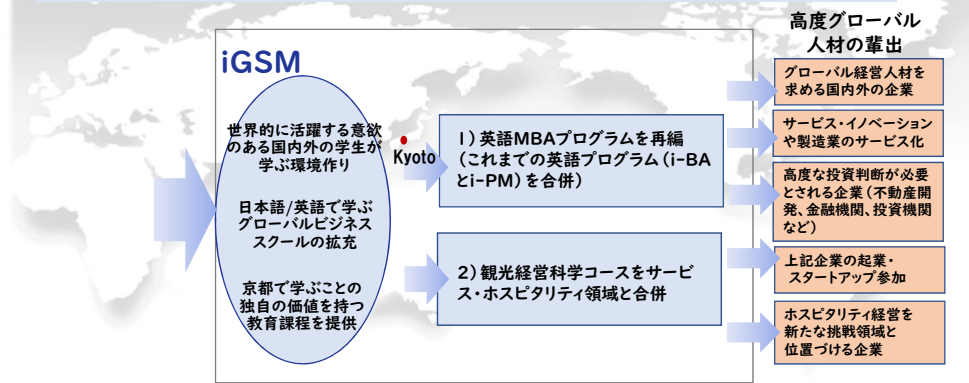
京都クリエイティブ・ アッサンブラージュ

2022年度より開講

京都大学、京都市立芸術大学、京都工芸繊維大学の3大学を中心に、時代の最前線で活躍するデザイナー、アーティスト、起業家らが結集。

経営管理研究部・教育部のグローバル化「iGSM」構想※「iGSM (International Graduate School of Management)」

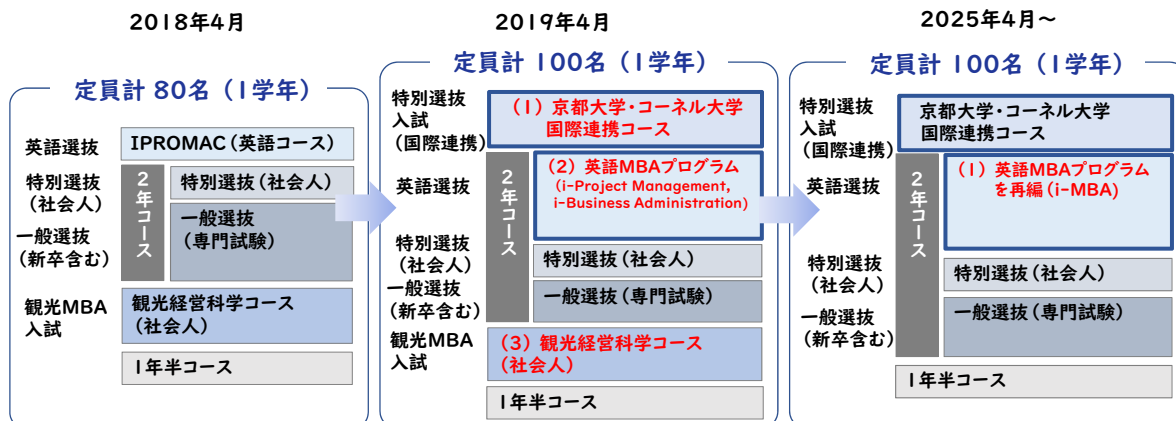
大学院経営管理教育部 → 国際的な文理融合ビジネススクール「iGSM」に発展



グローバルリーダーとして世界的に活躍するGlobal Eliteの育成

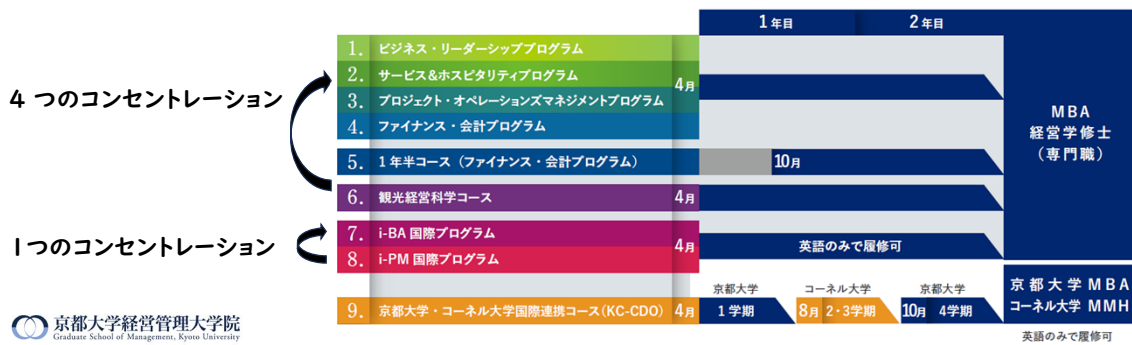
「iGSM構想」で再編・発展する教育課程

経営管理専攻 (MBA 専門職学位課程)



2025年度開始に向けたプログラムの再編

- 英語プログラム:i-BAプログラムとi-PMプログラムを合併 (i-MBAコンセントレーション(領域))
- 日本語プログラム:4つのコンセントレーション(領域)で構成し、観光経営科学コースをサービス・ホスピタリティ領域と合併



3. 課題と戦略

運営上の課題（1）

- 国立大学法人としての組織運営
⇒ 経営管理大学院院長の任期



- 安定的なガバナンスのために、任期の延長の検討の必要あり
⇒ 海外のビジネススクールの多くは院長の任期が長い

運営上の課題（2）

- 国立大学法人としての組織運営 ⇒ 教職員数・予算
- 社会人教育プログラムの運営



- 運営費交付金と定員内教員は硬直的かつ毎年一定比率削減されているため、社会ニーズの変化に対応した教育研究が困難
- 独自活動のため、運営に必要な経費の6割が外部資金
 - 教育研究の質の向上と競争的資金獲得のための葛藤
- 教育の質とコストは非常に強い相関⇒継続的な財源確保
 - cf. 米国ビジネススクール
(高い)学費+それを支える制度(充実した奨学金、教育ローン、RA制度)+別収入(出版、寄附金、非正規教育、資産運用)

運営上の課題（3）

- 教員の多様性向上
 - 特に、若手教員、女性教員、外国人教員の比率向上
 - 現在、専任教員22名の内、女性教員4名、外国人教員4名のみ
 - 一方、専門職大学院として、約3割以上の実務家教員が必要
- 組織・個人への評価指標の導入の検討

GSMの戦略

戦略

<p>1. 国際化</p> <p>(1) 多様な視点を尊重、促進、提供することによる世界クラスの研究・教育環境の構築</p> <p>(2) 教育の国際化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバルで多様な視点から、ビジネスの理解と実践の視野を広げる - 英語のMBAプログラムや特別カリキュラム活動の強化 - 日本語と英語のMBAプログラム間における相乗効果の創出 - 自らや他の様々なビジネス環境や文化を理解し、他者を尊重し、協力する能力の開発 <p>(3) 研究の国際的プレゼンス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外トップジャーナルへの論文投稿 ・国際学会や海外ジャーナルでのリーダーシップ発揮 <p>(4) 国際認証EQUIS取得による世界標準での研究・教育・組織体制強化</p> <p>(5) ハイブリッド型授業の充実化・デジタル技術の活用</p>	<p>2. 文理融合研究・教育（多様性に富んだ人材による研究・教育）</p> <p>(1) レジリエンス、アセットマネジメント、ESG等のテーマを軸にした文理融合による優位性の向上</p> <p>(2) DX・ICTに関する研究・教育における理系シナジーの発揮（データサイエンス・統計学の分野等）</p> <p>(3) 文化・芸術等に関わる人文科学系の研究・教育の更なる強化と科学技術との融合の実現</p> <p>(4) 文理融合によるリーダーシップ教育とグローバル人材育成（サービス&ホスピタリティ、プロジェクト・オペレーションズマネジメント、ビジネスリーダーシップ、アジアビジネス・リーダーシッププログラム等）</p> <p>3. 産官学連携</p> <p>(1) 産官学連携による地方創生および地域への貢献</p> <p>(2) ソーシャルインパクト、環境経営、危機管理、防災・復旧管理等の研究・教育促進</p> <p>(3) 産官学連携の寄附講座・寄附講義・エグゼクティブ教育促進</p>
--	--



 **京都大学経営管理大学院**
Graduate School of Management, Kyoto University